



2011
12月22日号
No.150

まゆみ

YAKUMO elementary school

八雲小学校PTA 広報部発行

<http://fish.miracle.ne.jp/y-pta/index.htm>

e-mail:y-pta@mx.miracle.ne.jp

「まゆみ」150号記念特集 歌声フェスティバル 5・6年部学年行事 他



現在まゆみ カラー版へ H20.7.18発行 第140号より



さようなら体育館 H15.7.17発行 第125号より



2000年 第1号 H12.1.20発行 第113号より

「まゆみ」150号記念特集

「まゆみ」から見る八雲小学校今昔物語

今回節目となる「まゆみ」一五〇号を発行するにあたり、過去発行された「まゆみ」より八雲小学校の歴史を振り返りました。

「まゆみ」は八雲小学校が統合後に現在の場所に誕生した昭和四十一年（一九六六年）から、校報PTA会報として発行されたといわれています。

名前の由来は、小学校統合時に各小学校から持ち寄られ、中庭に植えられた庭木のひとつがユミという木であり、このマユミの木は古事記にも登場している日本に古くからあつた木で、古代の人達はこれを弓などに使つたといわれるほど、強くしなやかな木なのだそうです。また、とても縁起が良い木ということなどから、会報のタイトルになったようです。

残念ながら、八雲小学校に保存されている既存の「まゆみ」は昭和四十五年三月二十日発行の第十一号からですが、主だった出来事を中心にピックアップしましたので見ていきましょう。

新しくなった校舎

今年度の校舎改修工事が予定通り終わりました。二十一世紀に在る「まゆみ」を育てるにふさわしい教育環境の整備に力を注いでいた八雲小学校。村議会、村民会などから校舎改修の要望を押し上げました。



新校舎 H2.12.20発行 第75号より



八雲小学校旧校舎 写真 S53.3.18発行 第39号より

ヨーロッパ見てある記 (海外研修報告)

文部省等海外研修員団の一員として、九月十六日から三泊四日、フランス、ベルギー、オランダ、スウェーデン、デンマークの五カ国を回りました。この研修は、本校が国際化を進める中で、海外の教育事情や文化について学ぶことが目的です。研修先では、各々の国の特色ある教育現場を見学し、校長先生や教員との交流も深まりました。研修報告は、海外研修員団のメンバーによるもので、各校の教育現場を巡り、それぞれの国について学びました。研修先では、各々の国の特色ある教育現場を見学し、校長先生や教員との交流も深まりました。



海外研修報告 S55.12.25発行 第47号より

親の責任 子の責任

親の責任と子の責任について、教育関係者や保護者の視点から考察し、現代の子育て環境における課題と解決策を議論しています。親は子どもの健全な成長のために適切な指導と愛情を注ぎ、子どもは自らの行動に責任を持ち、自立心を育てることが求められています。

親の責任 子の責任 S45.12発行 第14号より



今も中庭に存在するマユミの木

歌声フェスティバル



子ども達の声ってなんであんなによく通るんでしょうか？

十一月十八日(金)に行われた歌声フェスティバル。

オープニングで一年生が体一杯に歌う合唱は、広い体育館を突き抜けるように後ろの保護者席まで飛んで来ました。

何のためらいも無く、真っ直ぐに発せられるキラキラした歌声に、胸が一杯になった方も多いのではないのでしょうか？

二年・三年と学年が上がるにつれ、その歌声は表情を変え、整えられ、より多彩な表現を見せてくれます。合奏でも、友達との呼吸を合わせ、心を合わせ、見事な演奏を聴かせてくれました。中でも四年生は、連合音楽会の大舞台を経験しているだけあって、さすがの見応え、聴き応えのある演奏でした。途中、中学生の参加もあり、大人の入口にある彼らの繊細な歌声に、多感な頃を感じました。

教職員の合唱では、いつもと違う先生の顔を子ども達は新鮮に感じたでしょうし、八雲っ子スカイバンドは華やかな演奏でぐっと会場を盛り上げました。

かくいっ私もPTAコーラスで久々に合唱に参加して、人と声を合わせる喜びを体一杯に感じました。

声はその人を映す鏡であると思います。

子ども達の時々の二度とない歌声を心に刻んでいきたいと思います(ＨＪ)





PTA防災研修会



当日は小雨の降る中、二十一名の参加をいただき、林アドバイザーの講演。起震車体験を経て、災害の怖さ、そして家族を守るためには、日ごろから危機意識と備えが重要であることを学びました。

決して人ごとではなく、必ずやってくる災害から命を守るため、普段の備えをお願いします。ご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。(PTA研修部)

このような状況の中、改めて防災意識向上のため、防災研修会を十二月三日に、八雲町在住の林防災アドバイザーや松江市南消防署の協力を得て開催いたしました。

「空振り三振はしても、見逃し三振はするな。」これは、林防災アドバイザーから教わった、防災・減災のための心構えです。

今年、東日本大震災から始まり、紀伊半島での豪雨災害など、世界規模で多くの災害が発生しています。また、先日松江市でも広島県を震源とする地震が発生しました。

～すべては未来の子どもたちのために～



(写真：修繕済箇所・学習プリント)

すべては未来の子どもたちのために、みなさまからのお知恵とご協力もよろしく願います。

市の関係機関へは改善のための陳情を検討しているほか、来年度以降も継続的にこういった支援費用が必要と思われることから、教育後援会の必要性・設立について夜遅くまで協議しています。

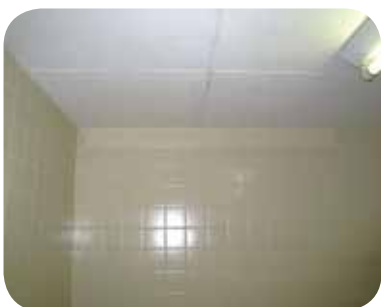
また来年度以降の対応方法については、九月から検討委員会を二回開催し、PTA役員・会員はもとより、市議会議員、地域の教育関係者を構成員として意見交換を行ってきました。

教育支援費は、教育活動において公的な費用で対応してもらえない修繕・備品・消耗品購入に充てられており、具体的には猛暑対策の大型扇風機、プール講師の修繕、学習プリント代として子どもたちのために活用されています。

本年度はPTA総会により「教育支援特別会計」を設け、PTA会計から二十五万円を捻出し教育支援費として活用しています。

教育支援費は、教育活動において公的な費用で対応してもらえない修繕・備品・消耗品購入に充てられており、具体的には猛暑対策の大型扇風機、プール講師の修繕、学習プリント代として子どもたちのために活用されています。

「教育後援会」 検討委員会の現状について





5年生 学年行事



靴飛ばし大会



九月四日に小学校の体育館で開催されました。

スリッパを遠くまで飛ばした者勝ちというシンプルなるルールにのっとり、くじ引きで三名ずつ順次挑戦しました。ハンマー投げの室伏選手ばりの大声&掛け声で挑む人、フラフープなどの小物を使って華麗に挑む人また、日々練習をつんできた子どもたちもいたようで、とても盛り上がりました。

曰く「靴はきちんとそろえましょう。」と言いますが、それに逆らう「靴とばし」は、やってみるとなぜか妙に気分爽快!?でした。(NT)

ふれあい広場



今年の思い出

今年もあとわずかとなりまして。

我が家の今年の思い出の一つが、家族で、大山登山に挑戦したことです。

下の子は、まだ保育園の年中児。上の子も体力的に厳しいだろうと思ひ、正直なところ、山頂まで登るのは殆ど諦めての挑戦でした。

予想通り、登り始めてすぐ、二〜三合目辺りから子どもたちは、『もう無理』、『足が痛い』などと言いはじめました。

当初の目標では、『六合目までは登ろう』と話していたので、『もう少し、もう少し』と子どもたちに言いながら、登りました。しかし、大人も五合目付近で、足がなかなか前に進まず、目標の六合目達成!が怪しくなってきました。

ですが、一緒に登っていた方が荷物を持って下さったりして、なんとか目標の六合目まで登頂達成!!

そこで、私達家族は重大なことに気づきました。

なっ、なんと、六合目で食べるはずだったおにぎりやサンドイッチが入ったリュックサックを持って下さった方が、既に頂上目指して六合目を出発されて



いた後だったのです…(涙) 仕方なく、私達はリュックサックを追いかけ、頂上を目指すことになったのです。

六合目を過ぎると、足場の悪いところも多くなり、健気に登ってる子どもたちの姿を見ると少し可哀想になりました。しかし、その時、登り始めた頃はあんなに『もう無理、足痛い』などと不満ばかり言っていたのに、全くネガティブな言葉が子どもたちから出てこなくなったことに気づいたのでした。それどころか、大人より歩くスピードも早くなり、いつの間にか『待ってよ』と私の方が後ろから叫んでいました。

ついに山頂に到着。山頂の景色は格別でした。また、山頂で食べたおにぎりの味、これまで食べたおにぎりの中で、No.1でした。

何よりも子どもたちの成長と、いつもは見せない(?)パワーに感動しました。

下山も、登り以上に悪戦苦闘し、途中、膝がガクガクして思うように歩けませんでした…。子どもは、次の日も元気に走り回っていました。大人はしばらくの間、これまた今までに味わったことのない筋肉痛に耐える日々が続きました。

ですが、大山登山に挑戦した

ことで、子どもの成長や、家族でお互いに想い合い、助け合うことの大切さを改めて感じるものが出来ました。一年に一回くらいは、家族皆で少し大変なことにチャレンジするのも良いかなあと感じた一日でした。(MT)



子どもの時間

みなさん、今年もあとわずかですね。

子ども達は冬休みを待ち遠しく、大人は…何かと気持ち的にも慌ただしい毎日を送っています。子どもの頃って、一時間・一日が今より長く感じられませんでしたか?

それは、子どもって初めて体験やたくさん学習・経験を体・心で学び吸収しているためです。よって、脳が大人の感じる時間より子どもが感じる時間を長くしているらしいです。そして、歳を重ねていくとどんどん時間が短くなるのはある程度、経験豊富で知識もあって脳がそんなに時間を必要としなくなった?とのこと。

へえ〜って、納得できたのは自分だけでしょうか?子どもの時間って大切ですね。毎日を無駄に過ごさないでいろんな事を吸収してもらいたいです。

これから冬休み…。冬休みの計画表を親子で考えてみてはいかがでしょう? (TN)

6年生 学年行事



日時:平成23年10月15日(土)
10:00 ~
場所:体育館

一組:児童二十四名、保護者十二名、兄弟七名、二組:児童二十七名、保護者十六名、兄弟四名、担任の先生二名、合計九十二名の参加で、「書道パフォーマンス&パーベキュー」をしました。
小学校最後の学年行事でしたが、沢山参加者があり、役員も気合が入りました。
書道パフォーマンスは、縦六m横六.6m(畳約二十一畳分の大きさ)の模造紙に役員の藤原さんが、木の幹を描き、そこへ生徒達でいろんな色のポスターカラーを手に



書道パフォーマンス&パーベキュー



付けて花びらに見立てペタペタと手形を付けて、味のある六年生らしい素晴らしい桜の木を完成させました。手にポスターカラーをつけて紙にペタペタ:なんて幼稚園以来じゃないでしょうか?最初は、控えめだった子ども達、昔のヤンチャ時代を思い出したかのように気がつけば顔や服や至るところに色をつけ、楽しそうに花弁を描いてました。次にその桜の木の上に相田みつをさんの詩「その時の出逢いが人生を根底から変えることがあるよき出逢いを みつを」をほけを使って、墨汁で一人一画ずつ書きました。大人達が見守る中、子ども達で書く位置、大きさ等、声を掛け合い、真剣に失敗もなく、とてもバランスのとれた詩を見事に書き上げました。
こういうのって、チームワークが良くないと出来ないのに、自然

と皆が協力しあい完成させたのを見てこの学年は心が一つになっているんだな:と、とても嬉しく思いました。
大人もせっかくなので、子どもに負けまいと、参加者全員で「平成二十三年度六年生一同」を一画ずつ書きました。
一画なんだけど、すごく緊張しました:でも:面白い!なかなか良い字が書けました。
あと:サツマイモで芋判を作成しました。彫刻刀で自分の名前を彫り、朱肉を付け、判を押ししました。作成時には、名前を逆に彫らなるといけない事を口答でしか言わなかったのに、下書きも何もなくいきなり彫り始め、漢字の子、カタカナの子、平仮名の子と様々でした。結構難しいだろうな~と思っていたのに時間内に完成出来たのにはビックリでした。見ると皆、本当に上手に彫れてました。
出来上がりは、想像以上に素敵な作品となり、感動してしまいました。
この作品は、卒業式に貼り出す事にしました。
本当に本当に素晴らしい作品なので是非皆さん見てください!桜の木を作成し、乾くのを待つ間、体育館の横でパーベキューをしました。
天気を心配していましたが、曇一つない晴天で真夏かな?と思うくらいとても暑く、汗を拭きながら炭に火を起こし、焼きそば、焼

き肉を作り、食べました。食べ盛りの子供達でするので、食べっぷりのいいこと、いいこと。マシユマロを持参し焙って食べていた子もいっとても美味しゅうでした。外で食べるのがすごく美味しく、ワイワイと賑やかに、楽しく過ごせました。保護者同士とか先生とかと食事をしながらお喋りをするってなかなか出来ないから、良い機会だったと思います。
この学年行事をするに当たり、期待はしていましたがその期待以上の成果を出せたと思えました。
チームワークの良さ、子ども達の成長にビックリさせられました。
さすが六年生!と感心する学年行事でした。(H)



運動会



九月十七日(土)に開催を予定していた運動会が雨天のため延期となり、翌十八日(日)に八雲小学校グラウンドで開催されました。

今年は、グラウンドが芝生化されて初めての運動会。参加した一年生から六年生までの全校児童は、青々とした芝生のグラウンドを元気がいっぱい駆け回りました。会場にはビデオやカメラを手にした家族の方々が足を運び、子どもたちに熱い視線と声援を送りました。

徒競走を皮切りに競技が行われ、日ごろ練習してきた成果を発揮しようと、真剣なまなざしでゴールテープを目指しました。

恒例となった応援合戦では、六年生がリーダーシップをとり、各チームが工夫を凝らした応援が繰り広げられ、今年も完成度の高い演技?に観客からは大きな拍手が送られました。そして、いきなりの雨...メインイベント色別リレーは、各学年から選出された選手に、雨を吹き飛ばすほどの大きな声援が送られる中、選手たちは水しぶきを上げ

ながら颯爽と駆け抜け、ゴール!!

また今回運動会時に、PTAも芝生化されたグラウンド上で親睦競技を行おうという研修部の発案により、学年対抗玉入れ競技が行われました。

公開競技だったにも関わらず、子ども達の前で親の意地?を見せよと皆さん真剣に力ゴを目がけて玉を投げ込んでおられました。

見た目以上に力ゴの高さが高く、思ったように玉が届かず、なかには力ゴの棒を持っている子どもにも、「もつちよつと棒を斜めにしてくれんかね〜。」と言いつつお父さんもおられました。

競技結果もさることながら、スター・観察・用具運搬など運営を子ども達みんなで行い、自分たち主体で運動会を作り上げていたことに感銘を受けました。

子どもたちは多くの声援が力になっていると思います。来年も精一杯応援しましょう。(NY)

追記

駐車場にてお借りした八雲中学校の野球内野グラウンド周辺は駐車禁止となっております。運動会当日数台の車が乗り入れておられましたので、PTA役員・先生方により雨でぬかるんだグラウンドに残るタイヤ痕を消すため整備をいたしました。

今後小学校行事などで中学校グラウンドに駐車される際は、お気を付けていただきますようお願いいたします。



応援合戦



編集後記

昭和四十一年から発行されたといわれている「まゆみ」も今年で四十五年目となります。今回「No.150号記念まゆみ」を発行することができ、発行に携わっていたいただきました関係者の皆様方に感謝いたします。

「二十年ひと昔」という慣用語がありますが、現在では目まぐるしい社会環境の変化から、「五年ひと昔」、「三年ひと昔」という表現を耳にするほど劇的に変化スピードがアップしています。

そんな時代背景の現在、少子化などの影響により小学校の廃校や統合が進み、長く続いていた会報も惜しまれつつ終了した小学校も少なくはありません。

過去の「まゆみ」を振り返って、当時携われた児童をはじめPTA諸先輩・先生方・地域の方々のご努力により今もなお八雲小学校の「まゆみ」は、発行を継続することができていると改めて感じることができました。

読み返すにつれ、児童も様々なことを学んでいましたが、保護者や先生も学ぶという向上心・向学心のもとに八雲小学校は成り立っていたという様子がよく分かります。

英語の「Success(サクセス)」という言葉には、「成功」という意味の他に「Inclusion(サクセッション)」「継承」という意味も含まれています。またお金で買えないものひとつに「歴史(継承)」があります。なかでも比較的文化の浅いアメリカ合衆国の人々は、他国の古い文化や歴史を重んじ、それを継承している団体や企業に尊敬の念をいだいているといわれています。

